

はじめに

そもそもの始まりは高知県民に

「自然を失うことが、どれほど大きな損失なのかを知ってもらうにはどうすればよいか？」
という雑談でした。

“自分たちが暮らし、そして働く地域の「自然の豊かさ」を実感し、

同時にその「豊かさの危うさ」を意識するための

「自然と人の関係性を計るモノサシ」を作れないか？

『暮らしの中の自然モノサシ市民調査』の手法を開発できないだろうか？

地域や集団での実践の糸口を探れないか？”

曖昧模糊とした出発点から計画が動き始めました。

高知県は自然が豊かと言われるますが本当にそうなのでしょうか。

一見豊かに見える高知県の自然ですが、実は数多くの場面で危機に直面しています。

しかし多くの高知県民はその事実をあまり自分事として理解していません。

これを自分たちの暮らしや働く場面で実感できるようにするためにはどうすればいいか？

これまで多くの取り組みが各方面の努力によりなされてきましたが、

「暮らしの視点」からのアプローチはあまり例がありませんでした。

そこで我々は「暮らしの視点」「専門家ではない市民の視点」から

高知の自然と人の関係性を計る「モノサシ」探しを始めました。